

赤煉瓦のまち“舞鶴”

NPO 法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴 理事 森口 清^{せいじ}滋

1. 地域づくり方針・目的

「ふるさと舞鶴」を個性的で魅力あるまちにするため、市内に残る明治・大正期の赤煉瓦建物に魅せられ者が集い、様々なまちづくりの活動を通して、舞鶴の「宝」である歴史的建物を後世に引き継ぎ、赤煉瓦を生かしたまちづくりに寄与するとともに全国の赤煉瓦に縁のある都市をつなぐ「赤煉瓦ネットワーク」の運営に参画し、全国の仲間と交流を深め、全国の赤煉瓦を生かしたまちづくりを支援することを目的とする。

2. 取組み内容

- ・市内の赤煉瓦倉庫の調査研究(赤煉瓦マップ、冊子、書籍の作成、ジオラマの制作)
- ・ライトアップ事業
- ・イベント開催(ジャズ野外コンサート、倉庫活用実践提案、冬季ライトアート事業)
- ・グランドワーク推進事業(赤煉瓦ロードの再生、日干し煉瓦制作)
- ・市内でのまちづくり講演会、ワークショップの開催
- ・全国各地へのまちづくり講演・支援活動
- ・ホームページの開設
- ・赤煉瓦保存基金の創設
- ・ホフマン窯活用計画の策定
- ・市政記念館(赤煉瓦倉庫)の管理運営受託(平成18年度～)

3. 苦労点

- ・新しい人材や活動資金の確保

4. 効果・反響等

- ・まちへの思いの高まりと誇りの醸成
- ・舞鶴のPRとまちのイメージの向上による交流人口の増加。
- ・まちづくり関連の書籍に舞鶴の取組みが多数取り上げられる。

5. 今後の課題・展開等

【課題】

- ・組織を支える後継者の育成
- ・市内まちづくり組織との積極的な連携

【今後の展開】

行政や市民が一体となって舞鶴のPRと赤煉瓦倉庫の民間活用の推進を行うとともに、活動を通じ、まちを担う人材の育成を図る。

赤れんがを生かしたまちづくり



絵 京都精華大学 山田千恵



赤煉瓦倶楽部舞鶴

舞鶴の赤煉瓦の特徴

- 残存遺構数の多さは全国屈指
- 建築・土木を含めると114件
- 竣工時の用途や機能が多様である
- 煉瓦が集まって残っている点
- 市民の身近な所で活かされている
- 珍しい積み方が含まれている





赤れんが博物館

再生された建物





舞鶴ライトアート2005



今後の活動

舞鶴の赤煉瓦倉庫のPRと民間活用の推進
指定管理者としての赤煉瓦倉庫の活用提案
四季を通じてのイベントの開催
市民からの景観条例の提案
まちづくり人材の育成
ホフマン窯の保存再生